

平成 29 年度 第 1 回鶴岡市介護保険運営協議会並びに  
第 1 回鶴岡市地域包括支援センター運営協議会議事録（概要）

○日 時 平成 29 年 7 月 19 日（水） 午後 2 時 00 分～午後 3 時 30 分

○会 場 鶴岡市役所 6 F 大会議室

○出席委員 土田兼史（会長）、小林達夫（副会長）、日向常浩、渋谷広之、清野肇、遠藤豊喜、  
佐藤豊継、鎌田剛、深澤一雄、松浦章、伊藤貫正、山本佳、

○欠席委員 難波琴

○市側出席委員 健康福祉部長 齋藤功、長寿介護課長 佐藤正直、長寿介護課長補佐 高橋厚子、  
同課主査 五十嵐美恵子、長谷川洋子、加藤早苗、同課高齢者支援専門員 上林一志、  
石井美喜、佐藤正、同課専門員 池田勝人、藤島庁舎市民福祉課主査 富樫博、羽黒庁  
舎市民福祉課長 押井新一、櫛引庁舎市民福祉課長 天然せつ、朝日庁舎市民福祉課長  
佐藤美鈴、温海庁舎市民福祉課長 佐藤美香

○公開・非公開の別 公開

○傍聴者の人数 1 人

- 次 第
1. 開 会
  2. 健康福祉部長挨拶
  3. 委員自己紹介
  4. 鶴岡市介護保険運営協議会
    - (1) 介護保険の運営状況について
    - (2) 介護予防・日常生活総合支援事業について
    - (3) 高齢者福祉計画及び第 7 期介護保険事業計画の策定について
  5. 鶴岡市地域包括支援センター運営協議会
    - (1) 地域包括支援センターの運営状況について
    - (2) 地域包括支援センター（温海地域）について
  6. その他
  7. 閉 会

○協議内容

1. 開 会
2. 健康福祉部長挨拶
3. 委員自己紹介
4. 鶴岡市介護保険運営協議会（議長：土田兼史会長）

【報告】

- (1) 介護保険の運営状況について（資料1）（説明：上林一志長寿介護課高齢者支援専門員、池田勝人長寿介護課専門員）

◆質問意見等

なし

- (2) 介護予防・日常生活支援総合事業について（資料2）（説明：加藤早苗長寿介護課主査）

◆質問意見等

なし

- (3) 高齢者福祉計画及び第7期介護保険事業計画の策定について（資料3）（説明：高橋厚子長寿介護課補佐）

◆質問意見等

なし

5. 鶴岡市地域包括支援センター運営協議会（議長：土田兼史会長）

【報告】

- (1) 地域包括支援センターの運営状況について（資料4-1、4-2）  
（説明：佐藤正長寿介護課高齢者支援専門員）

◆質問意見等

- [委員] 総合相談の中に医療関係のものがあるが、受けた相談はその後どこに繋いでいるのか。
- [事務局] 主治医や地域のかかりつけ医、病院の地域医療連携室や相談室に繋いでいる。
- [委員] 医師会地域医療連携室「ほたる」との連携はどうなっているか。
- [事務局] 「ほたる」は情報発信基地の役割を果たしている。そこから情報を得て関わっている。
- [事務局] 先ほどの補足だが、入院患者が介護認定を受けていない場合もあり、その場合は地域包括支援センターに繋いでいる。
- [委員] 病院から地域包括支援センターに繋ぐこともある。
- [委員] 高齢者世帯の一方が入院した場合、その家族が心配な状態になる事例があった。そのような場合にはどう対応しているか。
- [事務局] まず実態把握をしてその方も支援が必要な場合は併せて介護保険認定申請をする場合もある。また、認定まで行かない場合も今後の介護保険の利用の仕方も説明している。
- [委員] 近所の人からするとその方に声掛けをしても良いものかわからない。本人の了解を得てその辺も聞きながら家族にもかかわって欲しい。
- [事務局] 病棟看護師から同居していた家族が心配と連絡が入る場合もある。病院の連携室や相談室にもこのご意見を伝えたい。高齢者世帯としてこちらは関わっていく。
- [委員] 高齢者虐待の早期発見の市民のネットワークはどうなっているか。
- [事務局] 虐待の情報は地域の民生委員やケアマネ職に情報が集まることが多い。まだしっかりとしたネットワークの構築はできていないが、各専門職種間では虐待防止の視点で対応を検討していただいている。

- 地域包括支援センターの運営方針について（資料4-3）（説明：五十嵐美恵子長寿介護課主査、

◆質問意見等

なし

【協議】

- 指定介護予防支援ケアマネジメント業務委託について（資料4-4）

（説明：石井美喜長寿介護課高齢者支援専門員）

- [事務局] 市町村事業の総合事業が開始されたことから、本事業に関する介護予防マネジメントも包括で実施することとなっているが予防給付と同様、指定居宅介護支援事業所に委託できる。

[委員長] 指定介護予防支援ケアマネジメント業務の委託について承認いただけますか。  
[委員] 異議なし。  
[委員長] 本件について承認する。

(2) 地域包括支援センター（温海地域）について （資料 5）  
（説明：五十嵐美恵子長寿介護課主査）

◆質問意見等

[委員] この会議はどのような位置づけとなるのか  
[事務局] ご意見を頂く場となる。  
[委員] そうなるとあつみ福祉会が受けてくれるかどうかにかかってくる。  
[委員長] 社会福祉協議会の立場ではどうか。  
[委員] 社会福祉協議会としてはそれぞれの地域特性を活かした日常生活圏域で受けるのがよろしいかと思う。  
現在、社会福祉協議会の地域包括支援センターでは相談件数の増加、認知症や虐待対応など大変な状況にある。  
一方、旧鶴岡の中の体制はどうか。日常生活圏域の捉え方をどう整理していくのか。  
[事務局] 地域包括支援センターは住民からの認知度もあがり期待を受けて業務量が増えている。担当エリアすべて国の配置基準をクリアしてすべての包括に3職種（保健師、社会福祉士、主任介護支援専門員）の配置を目指したい。社会福祉協議会からは広域な場所を担当してもらっている。これまでどおりサブセンターで良いのかは検討しなければならない。  
[委員] 今後、地域共生社会を目指すなら、地域包括支援センターが重要となってくる。3職種配置できるような体制をお願いしたい。

6. その他

◆質問意見等

[委員] 介護の人材確保に市としてどのような対策をとっているのか。外から人材をとってくるような施策はあるのか。  
[事務局] 昨年度は県の「介護のお仕事プロモーション事業」補助金を得て小学生中学生高校生とその保護者を対象とした講演会を開催した。  
さらに外からとして、昨年度からは首都圏や仙台圏でのUターンIターン就活説明会に介護事業所も参加するよう呼びかけている。今年も何社か参加予定である。ただ即効性は難しい。皆さまからもご意見をいただきたい。

7. 閉会